

令和 2 年 8 月 25 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H02448

研究課題名(和文)食品因子センシングの機能性RNAによる制御

研究課題名(英文)Regulation of food factor sensing by functional RNAs

研究代表者

立花 宏文(Tachibana, Hirofumi)

九州大学・農学研究院・教授

研究者番号：70236545

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,000,000円

研究成果の概要(和文)：食品因子の機能性発現には、その因子を分子認識し作用を伝達する食品因子感知機構(食品因子センシング)が重要な役割を果たしている。生体機能分子としてタンパク質に翻訳されないRNA(機能性RNA)が注目されているが、食品因子の機能性発現における関与は不明である。本研究課題では、食品因子により発現調節を受ける機能性RNAならびに機能性RNAにより調節される食品因子センシングを明らかにすることにより、「食品因子の生体内感知・機能性発現における機能性RNAの役割」を解明することを目的としている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

食品因子の機能性発現において生体内における標的分子と食品因子との相互作用の重要性が示されてきたが、標的分子と食品因子との結合以後に生じる細胞内イベントについては多くは不明であった。本研究課題によって明らかになった食品因子によるマイクロRNAの発現調節作用とその機能性発現におけるマイクロRNAの関与は食品因子の作用メカニズムを理解する上で極めて重要な情報を与えることとなった。マイクロRNAはヒト生体内において約3分の1の遺伝子発現を制御することで多岐にわたる生命現象に関与している。今後、食品因子の作用メカニズムが機能性RNAの視点から明らかにされ、機能性発現の科学的根拠となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：MicroRNAs (miRNAs) are small, non-coding RNAs that regulate target gene expression by inducing mRNA degradation or translational inhibition. miRNAs play a critical role in many biological processes. Green tea polyphenol EGCG inhibits melanoma tumor growth by activating 67-kDa laminin receptor (67LR) signaling. EGCG up-regulated miRNA-let-7b expression through 67LR in melanoma cells. The EGCG-induced up-regulation of let-7b led to down-regulation of high mobility group A2, a target gene related to tumor progression. 67LR-dependent cAMP/protein kinase A/protein phosphatase 2A signaling pathway activation was involved in the up-regulation of let-7b expression induced by EGCG. Delphinidin, one of the anthocyanidins, shows protective effect against muscle atrophy. Delphinidin intake may prevent disuse muscle atrophy by inducing miR-23a expression and suppressing MuRF1 expression. These findings provide a basis for understanding the mechanism of miRNA regulation by functional food factors.

研究分野：フードケミカルバイオロジー

キーワード：食品因子 センシング 機能性RNA 細胞外小胞 マイクロRNA 機能性発現 ポリフェノール 分子認識

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

食品因子の機能性発現には、その因子を分子認識し作用を伝達する食品因子感知機構（食品因子センシング）が重要な役割を果たしている。例えば、機能性食品因子の一種である緑茶カテキン EGCG がその感知レセプターである 67kDa ラミニンレセプター（67LR）を介して cGMP 産生経路を活性化させることで細胞内 cGMP 量を増加させ、cGMP 依存的な細胞内イベントを惹起することでその機能性を発現している。また、共役リノール酸、トコリエノール、大豆イソフラボンの各機能性発現に関与する感知遺伝子を同定することに成功した。特に、大豆イソフラボンはファイトエストロゲンと呼ばれるように、その機能性はエストロゲン受容体 ER を介した作用として理解されてきたが、申請者らは ER に依存しない新しい機能性発現機序として、大豆イソフラボンセンシング分子 PAPD5 を介して産生誘導されるポリアデニル化マイクロ RNA が極めて重要な役割を担っていることを世界に先駆けて発見した。ポリアデニル化マイクロ RNA はその存在自体が報告例のない新規のマイクロ RNA 分子種である。こうした一連の研究から導き出された注目すべき点は、食品因子ごとに存在する感知機構が食品因子の機能性の特異性を生み出しており、その感知機構には cGMP やマイクロ RNA などの核酸関連因子が重要な役割を担っている可能性が示されたことである。マイクロ RNA は約 20 塩基からなるタンパク質に翻訳されないノンコーディング RNA の一種であり、標的となる mRNA の 3' 非翻訳領域への結合による mRNA の分解や翻訳阻害により標的遺伝子の発現を制御する。マイクロ RNA による遺伝子の発現調節は細胞の増殖、分化をはじめとする多種多様な生命現象に関与している。近年、機能性食品因子がマイクロ RNA の発現を変動させることで生理作用を発揮することが報告され、食品の機能性発現の新しい分子機構として注目されつつある。

2. 研究の目的

「食品因子センシングの機能性 RNA による制御」のもと、以下の研究項目を実施することで食品因子の生体内感知・機能性発現における機能性 RNA の役割とその意義を明らかにすることを目的とした。

1. 食品因子の機能性発現におけるマイクロ RNA の役割とその発現調節
2. 食品因子センシングを制御するマイクロ RNA の同定とその機能

3. 研究の方法

食品因子が発現を調節するマイクロ RNA を同定するとともに食品の機能性におけるそれらの役割ならびにその発現調節機構を解明する。食品因子の機能性発現に関連するマイクロ RNA のヒト血漿レベルにおける発現量と食事や生活習慣の関係をコホート調査において明らかにする。

食品因子センシング関連遺伝子を標的とする可能性のあるマイクロ RNA を選択し、それらの機能阻害や強制発現が食品因子センシングに与える影響を検討することで食品因子センシングを制御するマイクロ RNA を同定する。また、同定した食品因子センシング制御マイクロ RNA の発現に影響を与える食品因子の探索を、それら食品因子を作用させた培養細胞を、マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた解析により探索する。さらに、食品因子による食品因子センシング制御マイクロ RNA の発現調節について、食品因子センシング関連遺伝子をノックアウトした細胞や組織特異的にノックアウトしたマウスを用いて解析する。

4. 研究成果

- 1) 緑茶カテキンのマイクロ RNA 発現調節作用とそのメカニズム

メラノーマ細胞においてEGCGがマイクロRNAの発現に与える影響をマイクロアレイにより網羅的に解析した結果、多くのマイクロRNAの発現量が変動した。こうした変化は67LRの発現を抑制した細胞では認められなかったことから、EGCGが67LR依存的にmiRNAの発現量を調節していることが示唆された¹⁾。EGCGによって発現量が増加したmiRNAの中でも特に発現量の増加率の高かったlet-7bは、正常皮膚組織と比較してメラノーマにおいて発現が異常に低下していることや強制発現させるとメラノーマ細胞の転移が抑制されることが報告されている。そこで、メラノーマ細胞を肺転移させたマウスにEGCGを投与し、肺に形成された転移腫瘍におけるlet-7bの発現量を測定したところ、EGCG投与群では非投与群と比較してlet-7bの発現量が高値を示した。High mobility group A2 (HMGA2) は様々ながんで発現が亢進しており、がん細胞の増殖や上皮間葉転移に関与するがん遺伝子として知られている。HMGA2のmRNAの3'非翻訳領域にはlet-7bと相補的な配列が複数存在するため、let-7bはHMGA2を直接の標的遺伝子とし、HMGA2の発現を低下させる。そこで、HMGA2発現に対するEGCGの効果を検討したところ、EGCGを作用させたB16細胞では、HMGA2のタンパク質発現量が減少し、let-7b阻害剤はこうした発現低下作用が消失させた。これらの結果から、EGCGはlet-7bの発現量を増加させることでHMGA2の発現量を減少させることが示された(図1)。Let-7bはHMGA2の他にもMycやRasなどがん細胞の細胞増殖に関わる遺伝子を標的としているため、EGCGはlet-7bの発現調節を介してがん細胞の増殖シグナル経路に影響を与えることで、その生理作用を発揮していることが考えられる。EGCGはメラノーマに対し67LRを介してPKAを活性化させ、その下流のPP2Aを活性化させることを見出した。そこで、EGCGの67LRを介したlet-7b発現増加作用のメカニズムを検討したところ67LR/PKA/PP2A経路が関与していることを明らかにした¹⁾。

EGCGの血管内皮細胞を介した機能性発現機構として細胞外小胞/マイクロRNAを仲介分子とする機能性伝達経路を想定した検討を行った。血管内皮細胞に対するEGCGを作用させた血管内皮細胞由来細胞外小胞中のマイクロRNAを解析した結果、100種類以上のマイクロRNA量が増加し、低下したマイクロRNAは観察されなかった。また、EGCGを作用させた血管内皮細胞由来エクソソームを急性肺障害モデルマウスに投与したところ、肺における特定の炎症性サイトカインの発現が抑制されることを見出した。

慢性炎症にはマクロファージが深く関与し、緑茶カテキンEGCGはマクロファージの炎症応答を抑制する^{2,3)}。これまで、EGCGによるマクロファージの分化制御に67LR依存的なマイクロRNAが関与していることを見出したことを踏まえ、マクロファージを含む骨髄細胞特異的67LRノックアウトマウス(以下67LRKOマウス)を作製し、EGCGの抗肥満作用における67LRの関与を検討した。対照マウスおよび67LRKOマウスに対して、普通食群、高脂肪高ショ糖食摂食群、EGCG含有高脂肪高ショ糖食摂食群を設けた摂食試験を実施し、表現型解析を行った。対照マウスでは肥満誘導による体重増加がEGCGにより抑制されたが、67LRKOマウスではその作用が消失した。また、脂肪組織におけるマクロファージの集積を評価したところ、対照マウスではEGCGの摂食によりマクロファージの集積が抑制された一方で、67LRKOマウスではEGCGの集積抑制作用が著しく減弱した。以上より、緑茶カテキン

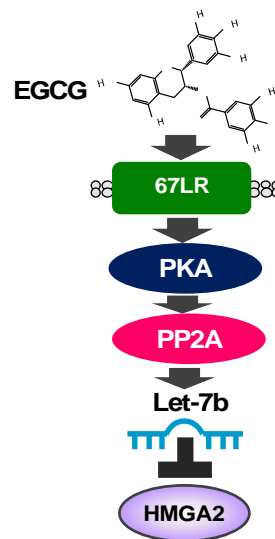


図1 緑茶カテキンEGCGのmiRNA発現調節作用

ン EGCG の抗肥満作用にマクロファージの 67LR が関与することが示された。

マクロファージは炎症を促進する M1 型と炎症を抑制する M2 型の 2 種類に大別され、組織微小環境に応じて可逆的に極性を変化させる。マクロファージの過剰な炎症応答はインスリン抵抗性やアルツハイマー病といった疾患の原因となる。そこで、EGCG がマクロファージの極性に与える影響ならびにマイクロ RNA 発現を介したそのメカニズムを明らかにすることを目的とした。EGCG を経口投与したマウスから腹腔マクロファージを採取し、マクロファージ極性マーカー遺伝子発現量をリアルタイム PCR 法により測定することで、マクロファージの極性に対する EGCG の影響を検討した。EGCG の経口投与により、M2 マーカー遺伝子である Arginase1 (Arg1), Found in inflammatory zone (Fizz1) の発現量が有意に高値を示した。次に、腹腔マクロファージにおいて EGCG が発現量を変動させるマイクロ RNA をマイクロアレイ(3D-Gene® Mouse miRNA Oligo chip)により解析したところ、EGCG が Let-7b の発現量を増加させることを見出した。そこで、マクロファージの極性に対する Let-7b の影響を検討したところ、Let-7b の過剰発現により M2 マーカー遺伝子の発現量が増加すること、Let-7b の機能を阻害した条件では、EGCG の M2 マーカー遺伝子発現増強作用が減弱することを明らかにした。

67LR はリンゴ、ブドウ、カカオなどに含まれるプロシアニジン C1 のセンサーとしても機能していることを明らかにした⁴⁾。今後、EGCG 以外のこうしたポリフェノールの機能性発現におけるマイクロ RNA の関与とその発現制御に関する検討が必要である。

2) 大豆イソフラボンのマイクロRNA発現調節作用

関節リウマチは慢性関節炎による関節軟骨や骨の破壊を主な病状とする自己免疫疾患であり、その有効な治療法は未だ確立されていない。大豆イソフラボン的一种であるダイゼインの腸内代謝産物であるエクオールは、他のイソフラボンより強い生理作用を持つことから機能性成分として注目されている。我々はコラーゲン誘導性関節炎(collagen-induced arthritis: CIA)マウスにおいて、エクオールの経口投与が関節炎および骨密度の低下を抑制することを見出した。そこで、エクオールの関節リウマチ抑制作用に関与するマイクロ RNA について検討を行った。

マウスマクロファージ様細胞株 RAW264.7 をエクオールで処理した後、IL-6 受容体(IL-6R)ならびに IL-6R の発現を抑制する可能性のあるマイクロ RNA (IL-6R 関連マイクロ RNA) の発現量を測定した。RAW264.7 細胞に IL-6R 関連マイクロ RNA を導入し、IL-6R 発現量を評価した。II 型コラーゲンおよび LPS の投与により関節炎が誘導された CIA マウスにエクオールを経口投与し、患部組織における IL-6R、骨破壊関連遺伝子ならびに IL-6R 関連マイクロ RNA の発現量を測定した。

エクオール処理により IL-6R の発現量は低下するとともに、IL-6R 関連 miRNA の発現量が増加した。また、IL-6R 関連マイクロ RNA の導入により、IL-6R 発現量は低下した。一方、関節炎症状が認められた CIA マウスの前肢における IL-6R および骨破壊関連遺伝子発現量はエクオールの投与により低下するとともに IL-6R 関連マイクロ RNA の発現量は増加した。以上の結果より、エクオールの CIA マウスにおける関節リウマチ抑制作用に、IL-6R の発現を抑制するマイクロ RNA の発現上昇が関与する可能性が示された。

3) アントシアニジンのマイクロRNA発現調節作用とそのメカニズム

アントシアニジン的一种であるデルフィニジンの筋萎縮抑制作用について検討するために、マウスの後肢を床から離して廃用性筋萎縮を誘導する尾懸垂試験を行った結果、デルフィニジンの摂取により筋萎縮が改善することを明らかにした⁵⁾。この試験における DNA マイクロアレイの結果より、デルフィニジンは酸化ストレス関連遺伝子の発現に影響を与えることが明らかにな

った。酸化ストレスは筋組織の分解に関与することが報告されており、デルフィニジン摂取による筋萎縮の抑制作用に酸化ストレスの軽減が関与している可能性が考えられた。

筋萎縮過程において、筋タンパク質の合成と分解のバランスは分解に傾いている。骨格筋の構成タンパク質を分解する経路の一つにユビキチン化されたタンパク質を分解するユビキチン・プロテアソーム経路がある。経路の中では基質となる筋タンパク質の特異性を決定するユビキチンリガーゼが律速段階となる。ユビキチンリガーゼの中でも Muscle RING-Finger Protein 1 (MuRF1) は骨格筋や心筋に発現し、筋萎縮関連遺伝子として注目されている。デルフィニジンの筋萎縮抑制作用メカニズムを明らかにするために、MuRF1 に対する影響を検討した結果、マウス骨格筋由来 C2C12 細胞および尾懸垂試験によって筋萎縮を誘導した骨格筋においてデルフィニジンは MuRF1 の発現を抑制した。MuRF1 の主要な発現調節機構にプロテインキナーゼ B (Akt) / Forkhead box class 0 (Fox0) 経路が存在しているが、デルフィニジンは Akt/Fox0 経路に影響を及ぼさなかった結果から、デル

フィニジンによる筋萎縮抑制作用は別の経路が関与していることが推察された。デルフィニジンの筋萎縮抑制作用機構を明らかにするためにマイクロ RNA に着目した。デルフィニジンの筋萎縮抑制作用に対するマイクロ RNA の関与を検討するために miR-23a に着目した。miR-23a は MuRF1 の 3' 非翻訳領域に結合しその発現を抑制する筋萎縮抑制性マイクロ RNA として報告されている。C2C12 細胞および尾懸垂試験によって筋萎縮を誘導した骨格筋においてデルフィニジンは miR-23a の発現量を増加した。同様の実験系において miR-23a の転写因子である Nuclear Factor of Activated T

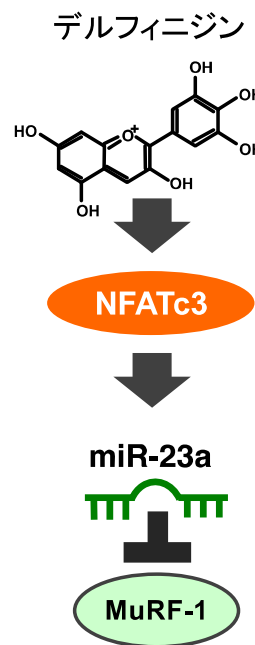


図2 デルフィニジンのmiRNA発現調節作用

cells 3 (NFATc3) の発現を評価した結果、デルフィニジンは NFATc3 の発現を上昇させた。以上の結果から、デルフィニジンの筋萎縮抑制作用に miR-23a の発現上昇が関与することが示された⁶⁾(図2)。

- 1) Scientific Reports, 6, 19225 (2016)
- 2) J. Biol. Chem., 292, 4077-4088 (2017)
- 3) J. Immunol., 199, 3261-3269 (2017)
- 4) Mol. Nutr. Food Res., 64, 1900986 (2020)
- 5) Biosci. Biotechnol. Biochem., 80, 1636-1640 (2016)
- 6) J. Agri. Food Chem., 65, 45-50 (2017)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 36件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Wasai Masafumi, Nonaka Haruna, Murata Motoki, Kitamura Ryo, Sato Yuka, Tachibana Hirofumi	4. 巻 83
2. 論文標題 Long-term dietary supplementation with the green tea cultivar Sunrouge prevents age-related cognitive decline in the senescence-accelerated mouse Prone8	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	6. 最初と最後の頁 339 ~ 347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09168451.2018.1530093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Bae Jaehoon, Kumazoe Motofumi, Fujimura Yoshinori, Tachibana Hirofumi	4. 巻 64
2. 論文標題 Diallyl disulfide potentiates anti-obesity effect of green tea in high-fat/high-sucrose diet-induced obesity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Nutritional Biochemistry	6. 最初と最後の頁 152 ~ 161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jnutbio.2018.10.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Bae Jaehoon, Kumazoe Motofumi, Takeuchi Chieri, Hidaka Shiori, Fujimura Yoshinori, Tachibana Hirofumi	4. 巻 520
2. 論文標題 Epigallocatechin-3-O-gallate induces acid sphingomyelinase activation through activation of phospholipase C	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 186 ~ 191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2019.09.102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Bae Jaehoon, Kumazoe Motofumi, Murata Kyosuke, Fujimura Yoshinori, Tachibana Hirofumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Procyanidin C1 Inhibits Melanoma Cell Growth by Activating 67 kDa Laminin Receptor Signaling	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Molecular Nutrition & Food Research	6. 最初と最後の頁 1900986 ~ 1900986
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/mnfr.201900986	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumazoe Motofumi, Hiroi Shun, Tanimoto Yousuke, Miyakawa Jyunichi, Yamanouchi Maasa, Suemasu Yumi, Yoshitomi Ren, Murata Motoki, Fujimura Yoshinori, Takahashi Takashi, Tanaka Hiroshi, Tachibana Hirofumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Cancer cell selective probe by mimicking EGCG	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.03.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mari Maeda-Yamamoto, Mie Nishimura, Nobuyoshi Kitaichi, Atsushi Nesumi, Manami Monobe, Sachiko Nomura, Yukihiko Horie, Hirofumi Tachibana	4. 巻 10
2. 論文標題 Jun Nishihira A randomized, placebo-controlled study on the safety and efficacy of daily ingestion of green tea (Camellia sinensis L.) cv. "Yabukita" and "Sunrouge" on eyestrain and blood pressure in healthy adults	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu10050569	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuya Yamashita, Asami Hirashima, I-Chian Lin, Jaehoon Bae, Kanami Nakahara, Motoki Murata, Shuhei Yamada, Motofumi Kumazoe, Ren Yoshitomi, Mai Kadomatsu, Yuka Sato, Ayaka Nezu, Ai Hikita, Konatsu Fujino, Kyosuke Murata, Mari Maeda-Yamamoto and Hirofumi Tachibana	4. 巻 8
2. 論文標題 Saturated fatty acid inhibits anti-obesity effect of green tea.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 10023
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-28338-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Miyawaki, Hiroyuki Sano, Hisashi Imbe, Reiko Fujisawa, Keiji Tanimoto, Jungo Terasaki, Mari Maeda-Yamamoto, Hirofumi Tachibana, Akihisa Imagawa, Toshiaki Hanafusa	4. 巻 10
2. 論文標題 O-Methylated catechins from "Benifuuki" green tea reduce serum levels of lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 ligands containing apolipoprotein B: a double-blind placebo-controlled randomized trial	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 924
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu10070924	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshito Abe, Naoki Odawara, Nantanat Aeimhirunkailas, Hinako Shibata, Naoki Fujisaki, Hirofumi Tachibana, Tadashi Ueda	4. 巻 1862
2. 論文標題 Inhibition of amyloid fibril formation in the variable domain of λ6 light chain mutant Wil caused by the interaction between its unfolded state and epigallocatechin-3-O-gallate	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochim Biophys Acta Gen. Subj.	6. 最初と最後の頁 2570-2578
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbagen.2018.08.006.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masafumi Wasai, Yoshinori Fujimura, Haruna Nonaka, Ryo Kitamura, Motoki Murata, and Hirofumi Tachibana	4. 巻 8
2. 論文標題 Postprandial glycaemia-lowering effect of a green tea cultivar Sunrouge and cultivar-specific metabolic profiling for determining bioactivity-related ingredients	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 16041
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-34316-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motofumi Kumazoe, Yuki Nakamura, Mai Yamashita, Takashi Suzuki, Kanako Takamatsu, Yuhui Huang, Jaehoon Bae, Shuya Yamashita, Motoki Murata, Shuhei Yamada, Yuki Shinoda, Wataru Yamaguchi, Yui Toyoda, and Hirofumi Tachibana	4. 巻 292
2. 論文標題 Green Tea Polyphenol Epigallocatechin-3-gallate Suppresses Toll-like Receptor 4 Expression via Upregulation of E3 Ubiquitin-protein Ligase RNF216.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Biol. Chem.	6. 最初と最後の頁 4077-4088
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.M116.755959.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motofumi Kumazoe, Mika Takai, Shun Hiroi, Chieri Takeuchi, Maasa Yamanouchi, Takashi Nojiri, Hiroaki Onda, Jaehoon Bae, Yuhui Huang, Kanako Takamatsu, Shuya Yamashita, Shuhei Yamada, Kenji Kangawa, Takashi Takahashi, Hiroshi Tanaka and Hirofumi Tachibana	4. 巻 7
2. 論文標題 PDE3 inhibitor and EGCG combination treatment suppress cancer stem cell properties in pancreatic ductal adenocarcinoma.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 1917
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-02162-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinori Fujimura, Chihiro Kawano, Ayaka Maeda-Murayama, Asako Nakamura, Akiko Koike-Miki, Daichi Yukihira, Eisuke Hayakawa, Takanori Ishii, Hirofumi Tachibana, Hiroyuki Wariishi and Daisuke Miura	4. 巻 7
2. 論文標題 A Chemometrics-driven Strategy for the Bioactivity Evaluation of Complex Multicomponent Systems and the Effective Selection of Bioactivity-predictive Chemical Combinations.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 2257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-02499-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motofumi Kumazoe, Mika Takai, Shun Hiroi, Chieri Takeuchi, Mai Kadomatsu, Takashi Nojiri, Hiroaki Onda, Jaehoon Bae, Yuhui Huang, Kanako Takamatsu, Shuya Yamashita, Kenji Kangawa, Hirofumi Tachibana	4. 巻 292
2. 論文標題 The FOXO3/PGC-1 signaling axis is essential for cancer stem cell properties of pancreatic ductal adenocarcinoma.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Biol. Chem.	6. 最初と最後の頁 10813-10823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.M116.772111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jaehoon Bae, Motofumi Kumazoe, Shuya Yamashita, Hirofumi Tachibana	4. 巻 7
2. 論文標題 Hydrogen sulphide donors selectively potentiate a green tea polyphenol EGCG-induced apoptosis of multiple myeloma cells.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 6665
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-06879-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kumazoe, M., Takai, M., Jaehoon, B., Huang, Y., Takamatsu, K., Won, YS., Hiroi, S., Yamashita, S., Yamada, S., Murata, M., Tsukamoto, S., and Tachibana, H.	4. 巻 36
2. 論文標題 FOXO3 is essential for CD44 expression in pancreatic cancer cells	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncogene	6. 最初と最後の頁 2643-2654
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 1038/onc.2016.426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motofumi Kumazoe, Mai Yamashita, Yuki Nakamura, Kanako Takamatsu, Jaehoon Bae, Shuya Yamashita, Shuhei Yamada, Hiroaki Onda, Takashi Nojiri, Kenji Kangawa, and Hirofumi Tachibana	4. 巻 199
2. 論文標題 Green tea polyphenol EGCG upregulates Tollip expression by suppressing Elf-1 expression.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Immunol.	6. 最初と最後の頁 3261-3269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1601822.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imbe, H., Sano, H., Miyawaki, M., Fujisawa, R., Miyasato, M., Nakatsuji, M., Haseda, F., Tanimoto, K., Terasaki, J., Maeda-Yamamoto, M., Tachibana, H., Hanafusa, T.	4. 巻 25
2. 論文標題 Benifuuki" Green Tea, Containing O-methylated EGCG, Reduces Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 Ligands Containing Apolipoprotein B: A Double-Blind, Placebo-Controlled Randomized Trial	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J. Fuct. Foods	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jff.2016.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita, S., Baba, K., Makio, A., Kumazoe, M., Huang, Y., Lin, IC., Bae, J., Murata, M., Yamada, S. and Tachibana, H.	4. 巻 473
2. 論文標題 -Tocotrienol upregulates aryl hydrocarbon receptor expression and enhances the anticancer effect of baicalein	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biochem. Biophys. Res. Commun.	6. 最初と最後の頁 801-807
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2016.03.111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatasa, Y., Chikazawa, M., Furuhashi, M., Nakashima, F., Shibata, T., Kondo, T., Akagawa, M., Tanaka, H., Tachibana, H., Uchida, K.	4. 巻 11
2. 論文標題 Oxidative Deamination of Serum Albumins by (-)-Epigallocatechin-3-O-gallate: A Potential Mechanism for the Formation of Innate Antigens by Antioxidants	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0153002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kim, YH., Won, YS., Xue, Y., Kumazoe, M., Yamashita, S., Hara, A., Takagaki, A., Goto, K., Nanjo, F., Tachibana, H.	4. 巻 64
2. 論文標題 Green Tea Catechin Metabolites Exert Immunoregulatory Effects on CD4(+) T Cell and Natural Killer Cell Activities	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J. Agri. Food Chem.	6. 最初と最後の頁 3591-3597
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.6b01115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata, M., Kosaka, R., Kurihara, K., Yamashita, S., Tachibana, H.	4. 巻 80
2. 論文標題 Delphinidin prevents disuse muscle atrophy and reduces stress-related gene expression	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biosci. Biotechnol. Biochem.	6. 最初と最後の頁 1636-1640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09168451.2016.1184560	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita, M., Kumazoe, M., Nakamura, N., Won, YS., Bae, J., Yamashita, S., Tachibana, H.	4. 巻 62
2. 論文標題 The Combination of Green Tea Extract and Eriodictyol Inhibited High-Fat/High-Sucrose Diet-Induced Cholesterol Upregulation Accompanied by Suppression of Cholesterol Synthesis Enzymes	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J.Nutr.Sci.Vit.	6. 最初と最後の頁 249-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3177/jnsv.62.249	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsukamoto, S., Kumazoe, M., Huang, Y., Yamada, S., Lesnick, C., Kay, NE., Shanafelt, TD, Tachibana, H.	4. 巻 178
2. 論文標題 SphK1 inhibitor potentiates the anti-cancer effect of EGCG on leukaemia cells	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Br. J. Haematol.	6. 最初と最後の頁 155-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bjh.14119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Won, Y.S., Kumazoe, M., Takamatsu, K., Shinoda, Y., Sonoda, S., Okada, K., Okamoto, T., Tachibana, H.	4. 巻 71
2. 論文標題 Green tea cultivar 'Benifuuki' potentiates split vaccine-induced immunoglobulin A production	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Nat. Med.	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11418-016-1028-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamagami, H., Kumazoe, M., Yamaguchi, Y., Fuse, S., Tachibana, H., and Tanaka, H.	4. 巻 22
2. 論文標題 6-Azido-6-deoxy-L-idose as a hetero-bifunctional spacer for the synthesis of zido-containing chemical probes	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Chemistry - Eur. J.	6. 最初と最後の頁 12884-12890
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/chem.201602044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiraishi, N., Kumazoe, M., Fuse, S., Tachibana, H., Tanaka, H.	4. 巻 22
2. 論文標題 The synthesis of trans-flavan-3-ol gallates by regioselective oxidative etherification and their cytotoxicity mediated by 67LR	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Chemistry - Eur. J.	6. 最初と最後の頁 13050-13053
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/chem.201602817	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Murata, Haruna Nonaka, Satomi Komatsu, Megumi Goto, Mai Morozumi, Shuhei Yamada, I-Chian Lin, Shuya Yamashita and Hirofumi Tachibana	4. 巻 65
2. 論文標題 Delphinidin prevents muscle atrophy and upregulates miR-23a expression	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Agri. Food Chem.	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.6b03661.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuhui Huang, Mami Sumida, Motofumi Kumazoe, Kaori Sugihara, Yumi Suemasu, Shuhei Yamada, Shuya Yamashita, Jyunichi Miyakawa, Takashi Takahashi, Hiroshi Tanaka, Yoshinori Fujimura, and Hirofumi Tachibana	4. 巻 53
2. 論文標題 Oligomer formation of a tea polyphenol, EGCG on its sensing molecule the 67-kDa laminin receptor	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Chemical Communication	6. 最初と最後の頁 1941-1944
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c6cc09504f	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤村由紀、三浦大典、割石博之、立花宏文	4. 巻 90
2. 論文標題 緑茶ポリフェノールの生体内代謝の二次元可視化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ビタミン	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumazoe, M. and Tachibana, H.	4. 巻 6
2. 論文標題 Anti-cancer effect of EGCG and its mechanisms	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Functional Foods in Health and Disease	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立花宏文	4. 巻 9
2. 論文標題 緑茶ポリフェノールの機能性発現メカニズム	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 機能性食品と薬理栄養	6. 最初と最後の頁 354-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田脩平, 立花宏文	4. 巻 5
2. 論文標題 ポリフェノールの生理作用を担う機能性RNA	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本ポリフェノール学会誌	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤村由紀, 立花宏文	4. 巻 54
2. 論文標題 カテキンシグナリングならびにイメージングの基礎	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 化学と生物	6. 最初と最後の頁 674-680
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立花宏文	4. 巻 34
2. 論文標題 イノベーションへと繋がる 食品と医学を巡るサイエンス 緑茶カテキンを感知するしくみを知り、活かす	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 2730-3733
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊添基文, 立花宏文	4. 巻 54
2. 論文標題 緑茶カテキンセンシング機構とその応用展開-カテキンパワーの引き出し方-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 化学と生物	6. 最初と最後の頁 698-700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立花宏文	4. 巻 180
2. 論文標題 緑茶カテキンが機能性を発現するしくみとその活用	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ソフト・ドリンク技術資料	6. 最初と最後の頁 65-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumazoe, M., Fujimura, Y., Hidaka, S., Kim, Y., Murayama, K., Takai, M., Huang, Y., Yamashita, S., Miura, D., Wariishi, H., Maeda-Yamamoto, M., and Tachibana, H.	4. 巻 5
2. 論文標題 Metabolic profiling-based data-mining for an effective chemical combination to induce apoptosis of cancer cells	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep09474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kim, YH., Yang, X., Yamashita, S., Kumazoe, M., Huang, Y., Nakahara, K., Won, YS., Murata, M., Lin, I., Yamada, K., and Tachibana, H.	4. 巻 26
2. 論文標題 Pentagalloylglucose increases a population of T regulatory cells and inhibits IgE production in ovalbumin-sensitized mouse	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Int. Immunopharmacol.	6. 最初と最後の頁 30-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.intimp.2015.02.025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang, Y., Kumazoe, K., Bae, J., Yamada, S., Takai, M., Hidaka, S., Yamashita, S., Kim, YH., Won, Y., Murata, M., Tsukamoto, S., and Tachibana, H.	4. 巻 34
2. 論文標題 Green tea polyphenol epigallocatechin-0-gallate induces cell death by acid sphingomyelinase activation in chronic myeloid leukemia cells	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Oncology Rep.	6. 最初と最後の頁 1162-1168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/or.2015.4086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsukamoto, S., Huang, Y., Kumazoe, M., Lesnick, C., Yamada, S., Ueda, N., Suzuki, T., Yamashita, S., Kim, YH., Fujimura, Y., Miura, D., Kay, E.N., Shanafelt, D.T. and Tachibana, H.	4. 巻 14
2. 論文標題 Sphingosine kinase-1 protects multiple myeloma from apoptosis driven by cancer-specific inhibition of RTKs	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Mol. Cancer Ther.	6. 最初と最後の頁 2303-2312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/1535-7163.MCT-15-0185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada, S., Tsukamoto, S., Huang, Y., Makio, A., Kumazoe, M., Yamashita, S. and Tachibana, H.	4. 巻 6
2. 論文標題 Epigallocatechin-3-O-gallate up-regulates microRNA-let-7b expression by activating 67-kDa laminin receptor signaling in melanoma cells	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep19225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lin, IC., Yamashita, S., Murata, M., Kumazoe, M. and Tachibana, H.	4. 巻 32
2. 論文標題 Equol suppresses inflammatory response and bone erosion due to rheumatoid arthritis in mice	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J. Nutr. Biochem.	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jnutbio.2016.02.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計248件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 立花宏文、藤村由紀
2. 発表標題 質量分析イメージングによる生体組織内における大豆イソフラボンの局在解析
3. 学会等名 不二たん白質研究振興財団第22回研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹下菜津子、錦戸里紗、山田修平、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 マウス正常肝細胞株NMuLiにおける67kDaラミニンレセプターを介したSREBP-1cの発現調節メカニズム
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富岡玲乃、両角麻衣、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血管内皮細胞由来エクソソームを介した抗炎症作用
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸亀裕貴、村田希、後藤萌、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 マイクロRNA発現調節を介したデルフィニジンの筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本恵美、岡千尋、林イチェン、山下修矢、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 エクオールのマイクロRNA発現調節を介した関節リウマチの抑制作用
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 楊琳云、禰津彩香、高垣晶子、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンの腸内細菌代謝物によるNK細胞活性の増強
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 日本型食事パターンの健康機能を探るー食品成分の機能的相互作用
3. 学会等名 第5回福岡健康長寿セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 柑橘由来成分と緑茶の機能性フードペアリング
3. 学会等名 第62回果汁技術研究発表会特別講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本恵美、小松智美、村田希、山下修矢、林イチェン、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 ケルセチンの腫瘍におけるmiR-320aの発現調節作用
3. 学会等名 令和元年度日本栄養・食糧学会九州沖縄支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤野小夏、吉本孝憲、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メチル化カテキンの抗アレルギー作用に対する エリオジクチオールを増強作用
3. 学会等名 令和元年度日本栄養・食糧学会 九州沖縄支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一瀬智美, 和才昌史, 藤村由紀, 三浦大典, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶サンルージュの食後血糖上昇抑制作用とメタボリック・プロファイリング
3. 学会等名 第13回メタボロームシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野奈々, 岩元彬, 井上祐一, 立花宏文, 川原浩治
2. 発表標題 IgE産生抑制作用を有するGAPDH配列の特定
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部、中四国支部合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹下菜津子, 錦戸里紗, 山田脩平, 藤村由紀, 立花宏文
2. 発表標題 肝臓特異的67-kDa laminin receptor ノックアウトマウスの作製とその表現型解析
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部、中四国支部合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 機能性フードペアリング：食品因子の機能的相互作用
3. 学会等名 令和元年度日本食品科学工学会東北支部、日本栄養・食糧学会東北支部合同支部大会公開シンポジウム「ここまでわかった食品の栄養・嗜好・機能」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 健康長寿社会を支える日本食の機能性を探る
3. 学会等名 第82回「健康とスポーツを科学する」懇話会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 67-kDa laminin receptor signaling mediates the bioregulatory effects of green tea polyphenol EGCG
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoki Murata, Yuka Sato, Yuki Marugame, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Identification of the molecules involved in the anti-melanoma effect of Delphinidin
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motofumi Kumazoe, Yoshinori Fujimura and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 cGMP mediates the beneficial effects of a green tea polyphenol EGCG
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ren Yoshitomi, Hirokatsu Kanzaki, Takuya Takakura, Shigeyuki Totoki, Motofumi Kumazoe, Yoshinori Fujimura and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Green tea polyphenol EGCG enhances anticoagulation factor TFPI expression by activating 67LR signaling
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Marugame, Motoki Murata, Megumi Goto, Yoshinori Fujimura, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019)
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jaehoon Bae, Motofumi Kumazoe, Yoshinori Fujimura and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Procyanidin C1 elicits melanoma cell growth inhibition by activating the protein phosphatase 2A pathway through 67-kDa laminin receptor signaling
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), the 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中愛健、恩田弘明、畠山結、熊添基文、藤村由紀、米倉円佳、中曾根光、立花宏文
2. 発表標題 緑茶抽出物摂取による血中cGMP濃度上昇とフラバノン類による増強
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田京介、福富拓哉、山田脩平、富岡玲乃、西岡成汰、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの抗肥満作用は骨髄細胞特異的67-kDaラミニン受容体ノックアウトマウスにおいて消失する
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸亀裕貴、村田希、後藤萌、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 Delphinidin誘導性microRNAの細胞外小胞を介した筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真生、廣井舜、熊添基文、藤村由紀、山本(前田)万里、花房俊昭、立花宏文
2. 発表標題 緑茶摂取によるヒト血球細胞におけるDNAメチル化調節作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川史代, 疋田愛, 両角麻衣, 熊添基文, 藤村由紀, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血管内皮細胞由来細胞外小胞を介した生体調節作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡成汰 竹下菜津子 錦戸里紗 山田脩平 藤村由紀 立花宏文
2. 発表標題 新規肝線維化発症関連遺伝子としての67-kDa Laminin Receptorの同定
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊喬嗣, 和才昌史, 藤村由紀, 三浦大典, 立花宏文
2. 発表標題 サンプルジュの食後血糖上昇抑制作用とその関与成分の同定
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品因子センシング機序に基づいた機能性フードペアリング
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会シンポジウム 精密な食機能デザイン研究を切り拓く先端オミクスソリューション (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 正田愛、禰津彩香、村田京介、村田希、中島綾香、 鈴木健吾、 立花宏文
2. 発表標題 ユーグレナ摂取による廃用性筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門松舞、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 緑茶ポリフェノールEGCGのSrc依存的ながん細胞死誘導
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤野小夏、吉本孝憲、篠田有希、岡田賢次、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶とエリオジクチオール配糖体の機能性フードペアリング
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉富廉、十時繁幸、高倉卓也、上崎浩克、山下修矢、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血栓症予防因子TFPI発現促進作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文、林イチエン、山下修矢
2. 発表標題 大豆イソフラボンの骨破壊抑制作用に関するマイクロRNA
3. 学会等名 不二たん白質研究振興財団第21回研究報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 機能性デザインフードの開発について
3. 学会等名 第28回西日本食品産業創造展 ' 18
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 腫瘍血管内皮細胞における cGMP の機能解析とその応用
3. 学会等名 第22回生物機能研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉富廉、十時繁幸、高倉卓也、上崎浩克、山下修矢、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血栓症予防因子TFPI発現調節作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第22回生物機能研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田京介、山田脩平、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのメラノーマ幹細胞形質阻害作用に関与する分子の同定
3. 学会等名 第22回生物機能研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤野小夏、吉本孝憲、篠田有希、岡田賢次、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶とエリオジクチオール配糖体の組み合わせによる抗アレルギー作用の増強
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梅晨怡、中山魁、林庭安、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 葉酸機能発現におけるFOLR3の役割
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門松舞、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶成分EGCGのがん細胞致死誘導作用におけるSrcの関与
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林庭安、清水友貴、吉本孝憲、裴宰焄、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 エリオジクチオールはウーロンホモビスフラバンBの多発性骨髄腫細胞に対するアポトーシス誘導作用を増強する
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤由佳、北村稜、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メタボリックプロファイリング法を用いた緑茶品種「サンルージュ」の認知機能低下抑制作用を担う成分の同定
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田京介、山田脩平、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのがん幹細胞形質阻害作用に関与する遺伝子の同定
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉富廉、十時繁幸、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 プロシアニジンC1の抗メラノーマ作用とその作用機序
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 疋田愛、後藤萌、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンの腸管上皮細胞におけるマイクロRNA発現調節作用
3. 学会等名 化学関連支部合同九州大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品成分の機能的相互作用について
3. 学会等名 日本保健指導士会九州支部セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 大豆イソフラボンの骨破壊抑制作用
3. 学会等名 第2回 福岡健康長寿セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンのケミカルバイオロジー
3. 学会等名 第16回レドックス・ライフイノベーションシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンセンシングのしくみ
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会シンポジウム「茶の飲用を科学する」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤由佳、北村稜、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 ミリセチンは老化促進モデルマウスにおける認知機能の低下を抑制する
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸亀裕貴、後藤萌、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンの筋萎縮予防マイクロRNA miR-23aの発現調節作用
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 裴宰焄、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 67-kDaラミニニンレセプターを介したプロシアニジンC1の抗メラノーマ作用
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林庭安、清水友貴、吉本孝憲、裴宰焄、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 エリオジクチオールはウーロンホモビスフラバンBの多発性骨髓腫細胞に対するアポトーシス誘導作用を増強する
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田希、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンはマイクロRNA Let-7b依存的に抗メラノーマ作用を発揮する
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会、第12回日本ポリフェノール学会、第15回日本カテキン学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品の機能性研究とその応用
3. 学会等名 トヨタ自動車講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内智枝理，日高詩織，熊添基文，立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCG様抗体の産生を誘導する抗腫瘍DNAワクチンの開発
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ベゼフン, 熊添基文, 藤村由紀, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶とDiallyl disulfideの機能性フードペアリング
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuheii Yamada, Yuhui Huang, Yoshinori Fujimura, and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Green tea polyphenol EGCG regulates microRNAs expression through 67kDa laminin receptor-dependent pathway
3. 学会等名 2018 Annual Conference & Exhibition Functional Foods, Nutraceuticals, Natural Health Products and Dietary Supplements (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田京介、山田脩平、牧尾彰子、福富拓哉、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのmicroRNAを介したマクロファージ極性調節作用
3. 学会等名 平成30年度日本栄養・食糧学会 九州沖縄支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ren Yoshitomi, Hirokatsu Kanzaki, Takuya Takakura, Sigeyuki Totoki, Motofumi Kumazoe, Yoshinori Fujimura and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Green tea polyphenol EGCG upregulates tissue factor pathway inhibitor expression via 67LR signaling
3. 学会等名 The 31st Annual and International Meeting of Japanese Association for Animal Cell Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 欄津彩香、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキン代謝物5-(3', 5'-dihydroxyphenyl)-valerolactoneによるナチュラルキラー細胞活性の増強
3. 学会等名 第14回日本食品免疫学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンセンシングと生体調節作用
3. 学会等名 平成30年度日本栄養・食糧学会北海道支部、東北支部合同支部大会 公開シンポジウム「食品成分および栄養素センシングと生体応答」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンによる生理活性発現メカニズムに関する研究
3. 学会等名 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団第30回学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶の効能・効果に関する最新の話題
3. 学会等名 お茶一杯の日かごしま2018市民公開講座(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品因子センシング科学とその実用化 機能性デザインフードの開拓
3. 学会等名 九州大学学術研究都市セミナー in 東京2018 新たな時代の九州大学学術研究都市（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンのケミカルバイオロジー
3. 学会等名 第4回福岡健康長寿研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品因子の機能的相互作用
3. 学会等名 宮崎大学およびJA宮崎経済連の成果報告会基調講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品因子のエクソソーム・マイクロRNA依存的な機能性発現
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会 シンポジウム「食品機能を仲介するマイクロRNA・エクソソーム研究最前線」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤村由紀、三浦大輔、立花宏文
2. 発表標題 緑茶の機能性を多面的に捉えるメタボリック・プロファイリング
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会 シンポジウム「フードメタボロミクス～健康長寿を目指す食品機能性研究」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田希、山田脩平、立花宏文
2. 発表標題 マイクロRNA Let-7bを介したデルフィニジンの抗メラノーマ作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福富拓哉、山田脩平、牧尾彰子、村田京介、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの経口摂取はマイクロRNA Let-7bを介してマクロファージの極性を調節する
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富岡玲乃、両角麻衣、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血管内皮細胞由来エキソソームマイクロRNA発現調節とその機能
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤村由紀、河野ちひろ、村山(前田)彩花、早川英介、割石博之、立花宏文、三浦大典
2. 発表標題 計量化学的技法による多成分系食品の生理活性評価とその予測を可能とする成分コンビネーション選出法の開発
3. 学会等名 第65回質量分析総合討論会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品因子センシングと食事摂取パターン
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本(前田)万里、立花宏文、篠田有希、岡田賢次、東洋昭
2. 発表標題 機能性表示制度を活用した機能性緑茶の開発
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江美由美、高松香菜子、篠田有希、園田早紀、岡田賢次、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶摂取の抗インフルエンザウイルス免疫応答に対する効果
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 錦戸里紗、山田脩平、立花宏文
2. 発表標題 脂質代謝関連転写因子SREBP-1cの発現制御遺伝子の同定
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田脩平、黄宇慧、塚本俊太郎、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのメラノーマ幹細胞形質阻害作用に関する遺伝子の同定
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水友貴、吉本孝憲、裴宰焄、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 ウーロンホモビスフラバンBのがん細胞致死誘導作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福富拓哉、山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGによるmicroRNA発現調節作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡千尋、小松智美、山下修矢、林宜チェン、立花宏文
2. 発表標題 ケルセチンの抗がん作用に関するマイクロRNAの探索
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山魁、山下修矢、中原加奈美、山口るみ、廣井舜、山本（前田）万里、栗山進一、立花宏文
2. 発表標題 食品因子センシング関連遺伝子発現量と食事パターンの関係
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤村由紀、河野ちひろ、立花宏文、割石博之、三浦大典
2. 発表標題 MALDI-MS代謝物プロファイリング法の開発と緑茶の抗酸化活性評価への応用
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡千尋、小松智美、山下修矢、林宜チェン、立花宏文
2. 発表標題 ケルセチンのマイクロRNA発現調節ならびに抗がん作用
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江美由美, 高松香菜子, 篠田有希, 園田早紀, 岡田賢次, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶がインフルエンザに対する免疫応答に与える影響
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村田 希、立花 宏文
2. 発表標題 マイクロRNA発現調節を介したデルフィニジンの筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水友貴、吉本孝憲、裊宰焄、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 ウーロンホモビスフラバンBの67LRを介したアポトーシス誘導作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林宜チェン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 エクオールのマイクロRNA発現調節による関節リウマチ抑制作用
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福富拓哉、山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGがマクロファージの極性に及ぼす影響とその作用機序
3. 学会等名 第21回生物機能研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motofumi Kumazoe, Mika Takai , Chieri Takeuchi, Mai Kadomatsu, Shun Hiroi, Kanako Takamatsu, Takashi Nojiri, Kenji Kangawa, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 cGMP induction suppresses pancreatic cancer stem cell properties
3. 学会等名 cGMP meeting
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 錦戸里紗、山田脩平、立花宏文
2. 発表標題 脂質代謝関連転写因子SREBP-1cの発現制御遺伝子の同定
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福富拓哉、牧尾彰子、山田脩平、立花宏文
2. 発表標題 マクロファージの極性に対する緑茶カテキンEGCGの影響とそのメカニズム
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内 智枝理、日高 詩織、熊添 基文、立花 宏文
2. 発表標題 67LR由来の緑茶カテキンEGCG結合ペプチドを抗原とする抗腫瘍ワクチンの開発
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡千尋、小松智美、林宜チェン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 ヒト子宮頸がん細胞株HeLaにおけるケルセチンのマイクロRNA発現調節作用
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江美由美、山下麻衣、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 エリオジクチオールによる緑茶抽出物のコレステロール低下作用増強効果
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水友貴、吉本孝憲、裴宰焄、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 多発性骨髄腫細胞におけるウーロンホモピスフラパンBの67LRを介したアポトーシス誘導作用
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村田 希、立花 宏文
2. 発表標題 マイクロRNA発現誘導によるデルフィニジンの筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食機能デザイン科学の展開
3. 学会等名 第13回九州大学学術研究都市情報交流セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶の認知症予防作用
3. 学会等名 日本獣医学会学術集会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 シンポジウム「豊かな未来を創造する農芸化学-西からの発信-」緑茶カテキンのケミカルバイオロジー
3. 学会等名 日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部2017年度合同大阪大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内智枝理, 高井美佳, 廣井舜, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 FOXO3依存的な膵臓がん幹細胞制御機構の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部2017年度合同大阪大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食機能デザイン科学に基づいた機能性食品の設計
3. 学会等名 第14回ビジネス創造交流会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Cellular Sensing System for Green Tea Polyphenol Epigallocatechin Gallate
3. 学会等名 International Symposium on Excellent Supply Strategy in The Food Industry
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤村由紀, 三浦大典, 立花宏文
2. 発表標題 「複合成分系である食品の機能性を高精度に捉えるニュートリメタボロミクス」
3. 学会等名 第39回日本臨床栄養学会総会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 公開市民フォーラム「日本食と健康寿命」「日本食素材の機能的相互作用」
3. 学会等名 平成29年度日本食品科学工学会西日本支部および日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水友貴、吉本孝憲、裴宰焄、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 ウーロン茶ポリフェノールのがん細胞致死誘導作用とそのメカニズム
3. 学会等名 平成29年度日本食品科学工学会西日本支部および日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 植物ポリフェノールの機能性発現におけるmicroRNA の関与
3. 学会等名 日本食品免疫学会大会シンポジウム「食における新しい調節因子microRNA」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福富拓哉、山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのマクロファージ極性調節作用
3. 学会等名 日本カテキン学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊添基文、中村友紀、山下麻衣、高松香菜子、鈴木貴視、野尻崇、立花宏文
2. 発表標題 緑茶ポリフェノールEGCG はcGMP 依存的に TLR4を低下させる
3. 学会等名 第56回 日本栄養・食糧学会 近畿支部大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「緑茶成分の生体内可視化とニュートリメタボロミクス」
3. 学会等名 AOU研究会基調講演
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食品機能としての食品因子センシング調節作用」
3. 学会等名 信州大学セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村田希、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンのマイクロRNA発現調節を介した廃用性筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 日本フードファクター学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGはmicroRNA Let-7bを介してマクロファージの極性を調節する
3. 学会等名 日本フードファクター学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 両角麻衣、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGによる血管内皮細胞exosomal microRNA発現調節作用
3. 学会等名 日本フードファクター学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村田京介、山田脩平、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのSTARD3を介したがん幹細胞抑制作用
3. 学会等名 日本フードファクター学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 【「食」「健康」「栄養】「食品因子センシングからみた食品因子の機能的相互作用」
3. 学会等名 (一財)バイオインダストリー協会機能性食品研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「21世紀における癌の分子予防医学の重要性：次世代の研究者へのメッセージ」 「緑茶カテキンの活性発現機構に基づくがん幹細胞制御」
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田脩平、牧尾彰子、福富拓哉、立花宏文
2. 発表標題 マクロファージにおける緑茶カテキンEGCGのmicroRNA発現調節作用とその機能
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食機能デザイン科学に基づいた機能性食品の設計」
3. 学会等名 福岡健康長寿セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食品因子センシングから見た日本食素材の機能的相互作用」
3. 学会等名 中村学園大学大学院栄養科学研究科博士後期課程セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田希、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンのマイクロRNA発現調節による廃用性筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉本孝憲, 藤野小夏, 篠田有希, 藤村由紀, 立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶と糖転移ヘスペリジンの機能性フードペアリング
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村稜、野中遥奈、佐藤由佳、和才昌史、村田希、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メタボリックプロファイリング解析による緑茶品種サンルージュの認知機能低下抑制作用に關与する成分の同定
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山魁、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 葉酸受容体FOLR3の機能解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下修矢、上田直樹、宮元彩希、上崎浩克、栗山進一、山本（前田）万里、立花宏文
2. 発表標題 ヒトの食品因子センシング遺伝子発現に及ぼす緑茶摂取の影響
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 村田希、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 マイクロRNA発現調節を介したデルフィニジンの筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 林イチエン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 エクオール関節リウマチ抑制作用に関するmicroRNA発現調節
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤萌、北村稜、中山魁、両角麻衣、吉本孝憲、山下修矢、村田希、平島亜沙美、山口るみ、立花宏文
2. 発表標題 昆布だしの食品因子センシング遺伝子発現調節作用
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山魁、上崎浩克、山下修矢、高倉卓也、栗山進一、山本（前田）万里、立花宏文
2. 発表標題 緑茶摂取のヒトにおける血液凝固因子TFPIの産生促進作用
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 両角麻衣、北村稜、後藤萌、中山魁、吉本孝憲、山下修矢、村田希、平島亜沙美、山口るみ、立花宏文
2. 発表標題 米粉摂取は食品因子センシング遺伝子の発現を調節する
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉本孝憲、北村稜、中山魁、両角麻衣、後藤萌、山下修矢、村田希、平島亜沙美、山口るみ、立花宏文
2. 発表標題 大豆の食品因子センシング遺伝子発現調節作用
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北村稜、山下修矢、平島亜沙美、山口るみ、後藤萌、中山魁、両角麻衣、吉本孝憲、立花宏文
2. 発表標題 鰹だしの食品因子センシング遺伝子発現調節作用
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 シンポジウム「非栄養素の分子栄養学」 ビタミンによるポリフェノールの機能性発現制御
3. 学会等名 第70回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンの機能性発現機構に基づいたがん治療戦略
3. 学会等名 日本栄養・食糧学会大会中部支部大会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉本孝憲、熊添基文、山下麻衣、立花宏文
2. 発表標題 EGCGはユビキチンリガーゼであるRNF216を介してTLR4シグナリングを阻害する
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 両角麻衣、林イチエン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 大豆イソフラボン代謝物エクオールはリウマチの関節炎及び骨破壊を抑制する
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤萌、山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGは67LRシグナリングを介してmicroRNAの発現を調節する
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北村稜、村田希、立花宏文
2. 発表標題 DelphinidinのマイクロRNA発現誘導を介した筋萎縮抑制作用
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山魁、平島亜沙美、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶は不飽和脂肪酸感知力を増強することで脂質代謝を調節する
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 十時繁幸、高倉卓也、上崎浩克、山下修矢、山本(前田)万里、栗山進一、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血栓予防因子TFPIÄb0発現促進作用とそのメカニズム
3. 学会等名 第53回化学関連支部合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田脩平、牧尾彰子、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGはメラノーマ細胞においてmicroRNA-let-7bの発現量を増加させることでがん遺伝子の発現を抑制する
3. 学会等名 生物機能研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤村由紀、中村純一、一瀬智美、立花宏文、割石博之、三浦大乘
2. 発表標題 食品の品質、おいしさ、安全性の評価に向けた質量分析イメージング
3. 学会等名 生物機能研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食品因子センシングのしくみ」
3. 学会等名 日本骨代謝学会 / 日本栄養・食糧学会合同シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 竹内智枝理 日高詩織 熊添基文 立花宏文
2. 発表標題 67LR由来ペプチドを抗原とする抗腫瘍ワクチンの開発
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度西日本支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 熊添基文 中村友紀 山下麻衣 高松香奈子 立花宏文
2. 発表標題 EGCG はユビキチンリガーゼRNF216依存的にTLR4 の発現を低下させる
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度西日本支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田脩平, 塚本俊太郎, 黄宇慧, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGはメラノーマのBRAF阻害剤に対する抵抗性を改善する
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度西日本支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Bae Jaehoon, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 プロシアニジン C1のメラノーマ細胞増殖抑制作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度西日本支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小田原直樹、阿部義人、立花宏文、植田正
2. 発表標題 EGCGによるV ₆ 変異体, Wilのアミロイド線維化抑制機構の解析
3. 学会等名 日本生化学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「緑茶カテキンの機能性発現メカニズム」
3. 学会等名 日本生薬学会第63回年会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「緑茶カテキンのケミカルバイオロジー」
3. 学会等名 第16回CBSM2016基調講演
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食品因子センシングからみた日本型食事パターンの機能性」
3. 学会等名 日本農芸化学会Visionaty農芸化学100シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンのケミカルバイオロジー研究に基づいたがん治療戦略
3. 学会等名 2016年度BIOJAPAN
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 村田希、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンの筋萎縮抑制マイクロRNA発現誘導作用とそのメカニズム
3. 学会等名 平成28年度日本栄養・食糧学会大会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山魁、山下修矢、中原加奈美、山口るみ、栗山進一、山本(前田)万里、立花宏文
2. 発表標題 食品因子センシング遺伝子と睡眠時間および身体活動量の関係
3. 学会等名 平成28年度日本栄養・食糧学会大会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤萌、両角麻衣、村田希、林イチエン、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジン摂取のマイクロRNA-23a 発現調節作用
3. 学会等名 平成28年度日本栄養・食糧学会大会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 両角麻衣、後藤萌、村田希、林イチエン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジン摂取によるマイクロRNA let-7b 発現調節作用
3. 学会等名 平成28年度日本栄養・食糧学会大会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山下麻衣, 熊添 基文, 立花 宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのTLR4シグナリング阻害メカニズム
3. 学会等名 第13回日本カテキン学会大会年次学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 元泳善, 金允喜, 楊雪, 熊添基文, 原彩, 高垣晶子, 南条 文雄、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキン代謝物の免疫調節作用
3. 学会等名 第13回日本カテキン学会大会年次学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤村由紀, 河野ちひろ, 村山彩花, 三木晶琴, 石井孝典, 行平大地, 早川英介, 立花宏文, 割石博之, 三浦大典
2. 発表標題 異なる質量分析システムを用いた緑茶の代謝物プロファイリング
3. 学会等名 第13回日本カテキン学会大会年次学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 両角麻衣、林イチェン、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 大豆イソフラボン代謝産物Equolの関節リウマチ抑制作用に關与するmicroRNA
3. 学会等名 第12回日本食品免疫学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masafumi Wasai, Motoki Murata, Haruna Nonaka, Ryo Kitamura, Akiyoshi Kawaoka, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Long-term Feeding of Green Tea 'Sunrouge' Suppresses Cognitive Decline in the Senescence-Accelerated Mouse Prone 8
3. 学会等名 JAACT2016 Kobe (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 食品機能としての食品因子センシング調節作用
3. 学会等名 第20回植物油栄養懇話会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 野中遥奈、北村稜、和才昌史、村田希、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メタボリックプロファイリング解析によるサンルージュの血糖値上昇抑制作用に關与する成分探索
3. 学会等名 第21回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 和才昌史、村田希、野中遥奈、北村稜、藤村由紀、河岡明義、立花宏文
2. 発表標題 老化促進モデルマウスにおける緑茶品種「サンルージュ」の認知機能保護効果
3. 学会等名 第21回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北村稜、野中遥奈、和才昌史、村田希、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メタボリックプロファイリング解析によるアセチルコリンエステラーゼ活性阻害成分の探索
3. 学会等名 第21回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田脩平、塚本俊太郎、黄宇慧、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGはメラノーマのBRAF阻害剤に対する感受性を高める
3. 学会等名 第21回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉本孝憲、裴宰焄、清水友貴、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 ウーロンホモビスフラバンBIは67LRを介して多発性骨髄腫細胞に細胞致死を誘導する
3. 学会等名 第21回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小松智美、牧尾彰子、高松香菜子、野中遥奈、村田希、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 ハトムギエタノール抽出物の血糖値上昇抑制作用ならびに腫瘍成長抑制作用
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会西日本支部大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 シンポジウム「伝統的発酵食品の生理機能の新展開」食品因子センシングからみた日本食素材の機能性
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田脩平、黄宇慧、塚本俊太郎、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのがん幹細胞抑制作用に関与する分子の同定
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 十時繁幸、高倉卓也、上崎浩克、山下修矢、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの血栓症予防因子TFPI発現促進作用とそのメカニズム
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内智枝理、高井美佳、廣井舜、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 新規膵臓がん幹細胞制御分子の同定
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 裴宰焄、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 H2Sによる緑茶カテキンEGCGのがん細胞致死誘導活性の増強
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tachibana, H.
2. 発表標題 Cellular Sensing System for Green Tea Polyphenol Epigallocatechin Gallate
3. 学会等名 12th Asian Congress of Nutrition (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Miyazaki, Y., Nakamizo, M., Kirino, T., Yamaguchi, C., Tachibana, H. Yamada, K.
2. 発表標題 Pilot clinical sytudy to evaluate the immune enhanceing activety of fucoidan mix.
3. 学会等名 12th Asian Congress of Nutrition (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Fujimura, Y., Nakamura, A., Yukihiro, D., Nishimura, R., Ichinose, T., Hayakawa, E., Miura, D., Tachibana, H.
2. 発表標題 The potential applicability of MALDI-MS to metabolic profiling of diverse green tea extracts with antioxidant acrtivity.
3. 学会等名 12th Asian Congress of Nutrition (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 廣井舜、大塚崇文、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンECGのがん細胞増殖抑制作用を担う分子の同定
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 牧尾彰子、馬場貴和子、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 -トコトリエノールによるバイカレインの抗メラノーマ作用増強効果
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 野中遥奈、和才昌史、村田希、立花宏文
2. 発表標題 緑茶品種サンルージュの抗メタボリックシンドローム作用
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小松智美、岡崎梨紗、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 共役リノール酸の抗がん作用に関する遺伝子の機能解析
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松香菜子、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 メタボリックプロファイリング法によるEGCG作用増強成分の探索
3. 学会等名 化学関連支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoshinori Fujimura, Asako Nakamura, Daichi Yukihiro, Rie Nishimuta, Eisuke Hayakawa, Daisuke Miura, Hirofumi Tachibana, Hiroyuki Wariishi
2. 発表標題 The Applicability of MALDI-MS to High-throughput Metabolic Profiling of Diverse Green Tea Extracts with Antioxidant Activity.
3. 学会等名 ASMS2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松香菜子、熊添基文、藤村由紀、立花宏文
2. 発表標題 EriodictyolによるEGCGの抗がん作用の増強
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 廣井舜、山下修矢、中原加奈美、平島亜沙美、山口るみ、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキン感知関連分子MYPT1の発現量を高める食品の摂取パターン
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 牧尾彰子、馬場貴和子、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 -トコトリエノールによるバイカレインの抗メラノーマ作用増強効果
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平島亜沙美、山下修矢、中原加奈美、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶摂取による不飽和脂肪酸感知力の増強効果
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山下修矢、廣井舜、中原加奈美、平島亜沙美、山口るみ、立花宏文
2. 発表標題 不飽和脂肪酸感知分子PPAR の遺伝子発現量を高める食品の摂取パターン
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 野中遥奈、和才昌史、村田希、立花宏文
2. 発表標題 緑茶品種サンルージュの抗メタボリックシンドローム作用
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤村由紀・三浦大典・割石博之・立花宏文
2. 発表標題 要素還元的手法を補完するメタボロミクス：緑茶の機能性評価への応用
3. 学会等名 日本食品科学工学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoshinori Fujimura, Koretsugu Ogata, Hirofumi Tachibana, Daisuke Miura
2. 発表標題 High-sensitive analysis of distributeon of phytochemicals by mass spectrum imaging
3. 学会等名 International Symposium on Dietary Antioxidants and Oxidative Stress in Health (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 熊添基文, 高井美佳, 立花宏文
2. 発表標題 PDE3阻害剤は緑茶カテキンEGCGの膵臓がん転移抑制作用を増強する
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部ならびに中四国支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山田脩平, 牧尾彰子, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのメラノーマにおけるmicroRNA発現調節作用
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部ならびに中四国支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 日高詩織, 鶴留ゆかり, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 67-kDa Laminin receptor由来ペプチドを用いた抗腫瘍ワクチンの作製
3. 学会等名 日本農芸化学会西日本支部ならびに中四国支部合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンを感知するしくみに基づいたカテキンの機能発現増強
3. 学会等名 徳島大学食品機能学セミナー
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 和才昌史, 河岡明義, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶品種サンルージュの機能性解析
3. 学会等名 第58回紙パルプ技術協会年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松香菜子, 篠田有希, 園田早紀, 岡田賢次, 岡本武久, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 ペニフウキによるインフルエンザワクチンの増強効果
3. 学会等名 日本食品免疫学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山口るみ、山下修矢、中原加奈美、平島亜沙美、廣井舜、中山魁、栗山進一、山本（前田）万里、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキン感知分子67LRの発現量をもめる食品の摂取パターン
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平島亜沙美、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶摂取の脂肪組織における不飽和脂肪酸センシング調節作用
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 廣井舜、黄宇慧、塚本俊太郎、山田脩平、熊添基文、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 脂質ラフト崩壊を介した緑茶カテキンEGCGのがん細胞致死メカニズム
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中山魁、山下修矢、中原加奈美、平島亜沙美、山口るみ、廣井舜、栗山進一、山本（前田）万里、立花宏文
2. 発表標題 短鎖脂肪酸センサーGPR43の発現量をもめる食品の解析
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山下修矢、岡崎梨紗、小松智美、阿比留晶子、園田知代、立花宏文
2. 発表標題 共役リノール酸10t, 12c-CLAのがん細胞増殖抑制作用に関わる遺伝子の同定および機能解析
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小松智美、山下修矢、林宜チエン、立花宏文
2. 発表標題 ケルセチンのがん細胞増殖抑制作用機構
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 村田希、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 デルフィニジンによる筋萎縮抑制microRNAの発現誘導作用
3. 学会等名 平成27年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 白石奈々、熊添基文、立花宏文、田中浩士
2. 発表標題 酸化環化反応を用いた光学活性3-O-アシル化カテキン類縁体の合成及びその機能評価
3. 学会等名 第108回有機合成シンポジウム2015年秋
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「緑茶の機能性について - 基礎と応用 - 」
3. 学会等名 熊本県食料産業クラスター協議会講習会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motofumi Kumazoe and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 cGMP mediates the effect of green tea polyphenol EGCG
3. 学会等名 19th International Conference of FFC (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shuheii Yamada, Yuhui Huang, Shuya Yamashita and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Green tea polyphenol EGCG up-regulates microRNA let-7b expression through 67LR
3. 学会等名 19th International Conference of FFC (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 I-Chian Lin, Shuya Yamashita, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 The effects of the isoflavone metabolite equol on the rheumatoid arthritis-induced inflammatory responses and bone erosion in mice
3. 学会等名 19th International Conference of FFC (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Murata, Masafumi Wasai, Haruna Nonaka and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 New red leaf tea cultivar 'Sunrouge' extract suppresses metabolic syndrome
3. 学会等名 19th International Conference of FFC (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Cellular Sensing mechanisms and pathways for green tea polyphenol epigallocatechin gallate
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motofumi Kumazoe, Mai Yamashita, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 EGCG3" Me improves high-fat/high-sucrose diet-induced dyslipidemia.
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yuhui Huang, Shuntaro Tsukamoto, Shuhei Yamada, Motofumi Kumazoe, Daisuke Umeda, Shuya Yamashita, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Identification of a sensing molecule in EGCG-induced anti-melanoma activity that is essential for cancerstem cell properties
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shuheii Yamada, Yuhui Huang, Shuya Yamashita and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 The effect of green tea polyphenol EGCG on microRNAs expression in melanoma cells
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shuya Yamashita, I-Chian Lin, and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Soy isoflavone modulates small RNA modification through PAP associated domain containing 5
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Jaehoon Bae, Motofumi Kumazoe, Shuya Yamashita and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Procyanidin C1 induces growth inhibition by 67LR/PP2A pathway on B16 melanoma cells
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoon Hee Kim and Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Anti-allergic effect of hydrolysable tannins through their target molecule
3. 学会等名 The 6th International Conference on Food Factors (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Cellular Sensing mechanisms and pathways for green tea polyphenol epigallocatechin gallate
3. 学会等名 2015 Konkuk BK21 Plus-kyushu University Joint Seminar
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yuhui Huang, Shuntaro Tsukamoto, Daisuke Umeda, Shuhei Yamada, Shuya Yamashita, Motofumi Kumazoe, Yoon hee Kim, Motoki Murata, Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Green tea polyphenol EGCG activates PP2A through 67LR/cAMP eliciting melanoma-specific antitumor activity
3. 学会等名 2015 Konkuk BK21 Plus-kyushu University Joint Seminar
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンセンシング機構の解明とその応用展開
3. 学会等名 BMB2015第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 黄宇慧、塚本俊太郎、熊添基文、山田脩平、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 多発性骨髄腫で高発現するスフィンゴシンキナーゼ1はRTKs阻害による細胞死を阻害する
3. 学会等名 BMB2015第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会合同大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤村由紀, 三浦大典, 緒方は嗣, 割石博之, 立花宏文
2. 発表標題 質量分析イメージング法: 緑茶カテキンの生体組織内分布の新たな可視化技術
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 黄宇慧, 塚本俊太郎, 山田脩平, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの抗メラノーマ作用機序の解明とその応用
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松香菜子, 篠田有希, 園田早紀, 岡田賢次, 岡本武久, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 インフルエンザワクチン作用を強める緑茶品種「べにふうき」
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山下麻衣, 熊添基文, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのEIf-1発現制御を介した抗炎症作用機構
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山下麻衣、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 肥満モデルマウスにおける緑茶と柑橘ポリフェノールの組み合わせ摂食効果
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山田脩平、塚本俊太郎、黄宇慧、牧尾彰子、立花 宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGのmicroRNA let-7bを介したがん遺伝子HMGA2発現抑制作用
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 野中遥奈, 和才昌史, 村田希, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶品種「サンルージュ」のメタボリックシンドローム予防作用
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 熊添基文, 高井美佳, 立花宏文
2. 発表標題 PDE3阻害剤はEpigallocatechin-3-O-gallate (EGCG) の抗がん作用を増強する
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 廣井舜, 大塚崇文, 山下修矢, 立花宏文
2. 発表標題 エピカテキンガラートのがん細胞増殖抑制作用を担う遺伝子の探索
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平島亜沙美, 山下修矢, 立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶摂取による不飽和脂肪酸センシング調節作用
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高倉卓也, 上崎浩克, 山下修矢, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGの67LRを介した抗血栓作用
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 一瀬智美, 藤村由紀, 中村麻子, 行平大地, 早川英介, 割石博之, 立花宏文, 三浦大典
2. 発表標題 緑茶抽出物の生理活性評価に役立つ代謝物プロファイリング法の開発
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 河野ちひろ, 藤村由紀, 石井孝典, 早川英介, 割石博之, 立花宏文, 三浦大典
2. 発表標題 緑茶抽出物の品質評価に向けたハイスループット代謝物プロファイリング
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 和才昌史, 村田希, 野中遙奈, 河岡明義, 立花宏文
2. 発表標題 緑茶品種「サンルージュ」の食品機能性
3. 学会等名 第12回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 緑茶成分の機能性発現メカニズムとその応用展開
3. 学会等名 第13 回日本機能性食品医用学会総会シンポジウム「緑茶の機能性」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hirofumi Tachibana
2. 発表標題 Cyclic GMP as a critical signal mediator for green tea polyphenol epigallocatechin-3-O-gallate through the sensing receptor 67LR
3. 学会等名 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「食品因子を感知するしくみの解明をめざして」
3. 学会等名 日本学術振興会学術システムセンター農学班セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 「フードケミカルバイオロジーの新展開」
3. 学会等名 食糧化学工学分野創立五十周年記念シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 立花宏文
2. 発表標題 シンポジウム「食品機能研究なう！：食品機能研究の過去、現在、そして未来」食品機能評価の新たな視点
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤村由紀、三浦大典、割石博之、立花宏文
2. 発表標題 要素還元的手法の限界とメタボロミクスの挑戦：食品機能性評価への応用
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山下麻衣、中村友紀、熊添基文、立花宏文
2. 発表標題 メチル化カテキンは脂肪組織においてRNF216依存的にTLR4の発現を低下させインスリン抵抗性を緩和する
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高倉卓也、上崎浩克、山下修矢、山本万里、栗山進一、立花宏文
2. 発表標題 緑茶摂取はヒトにおいて血液凝固阻害因子TFPIの産生を促進する
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平島亜沙美、山下修矢、花房俊昭、山本(前田)万里、立花宏文
2. 発表標題 べにふうき緑茶摂取のヒトにおける脂質代謝関連遺伝子発現調節作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 熊添基文、高井美佳、山内真麻、高橋孝志、田中浩士、立花宏文
2. 発表標題 67LR活性化剤は膵臓がんに対し抗がん作用を発揮する
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 黄宇慧、塚本俊太郎、熊添基文、山田脩平、山下修矢、立花宏文
2. 発表標題 緑茶カテキンEGCGは細胞表面セラミド量を増加させることで脂質ラフトの崩壊を誘導し増殖因子受容体活性を抑制する
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山下修矢、林イチエン、小松智美、立花宏文
2. 発表標題 大豆イソフラボンのPAPD5依存的なmicroRNA発現調節作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 和才昌史、村田希、野中遥奈、河岡明義、立花宏文
2. 発表標題 老化促進マウスSAMP8における緑茶品種「サンルージュ」の認知機能保護効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 山下修矢、立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 pp157-168
3. 書名 フラボノイドの抗アレルギー作用 内外美容成分 食べる化粧品の素材研究	

1. 著者名 立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 pp285-292
3. 書名 緑茶カテキン 食品機能性成分の吸収・代謝・作用機序	

1. 著者名 和才昌史、立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 エヌ・ティー・エス出版	5. 総ページ数 pp356-361
3. 書名 高機能茶サンルージュのアルツハイマー病予防効果 アルツハイマー病発症メカニズムと新規診断法・創薬・治療開発	

1. 著者名 立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 月刊アグリバイオ	5. 総ページ数 25-28
3. 書名 緑茶カテキンの生理作用発現メカニズム	

1. 著者名 熊添基文、立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 バイオサイエンスとインダストリー	5. 総ページ数 452-456
3. 書名 茶カテキンの活性発現機序に基づいた新たながん治療戦略	

1. 著者名 藤村由紀、立花宏文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ケミカルエンジニアリング	5. 総ページ数 32-37
3. 書名 緑茶ポリフェノールの機能性を切り開くメタボリック・プロファイリング技術	

1. 著者名 Tachibana, H.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 CABI International	5. 総ページ数 pp89-100
3. 書名 Health Benefits of Green Tea: An Evidence-based Approach Green tea polyphenol EGCG sensing receptor	

1. 著者名 山下修矢、立花宏文	4. 発行年 2017年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 pp108-122
3. 書名 非栄養素の分子栄養学 第7章 食品因子センシングの調節による食品因子の機能性増強	

1. 著者名 藤村由紀、林宜チェン、吉本孝憲、立花宏文	4. 発行年 2017年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 pp188-207
3. 書名 機能性食品開発のための初期評価試験プロトコール集 第12章 抗炎症・抗アレルギー作用	

1. 著者名 立花宏文	4. 発行年 2017年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 74-78
3. 書名 内分泌・糖尿病・代謝内科 食品因子センシングのしくみとその調節	

1. 著者名 立花宏文	4. 発行年 2017年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 34-39
3. 書名 明日の食品産業 緑茶カテキンの機能性発現のしくみとその活用	

1. 著者名 Yoshinori Fujimura, Daisuke Miura, and Hirofumi Tachibana	4. 発行年 2017年
2. 出版社 MDPI	5. 総ページ数 -
3. 書名 Molecules. A Phytochemical-Sensing Strategy Based on Mass Spectrometry Imaging and Metabolic Profiling for Understanding the Functionality of the Medicinal Herb Green Tea.	

1. 著者名 山田脩平, 立花宏文	4. 発行年 2016年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 6
3. 書名 ポリフェノール：機能性成分研究開発の最新動向	

1. 著者名 立花宏文, 藤村由紀	4. 発行年 2015年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 6
3. 書名 食物アレルギーの現状とリスク低減化食品素材の開発	

1. 著者名 立花宏文	4. 発行年 2015年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 276
3. 書名 食品因子による栄養機能制御	

1. 著者名 Yoshinori Fujimura, Hirofumi Tachibana	4. 発行年 2015年
2. 出版社 John Wiley & Sons	5. 総ページ数 10
3. 書名 GENOMICS, PROTEOMICS AND METABOLOMICS IN NUTRACEUTICALS & FUNCTIONAL FOODS	

1. 著者名 Hirofumi Tachibana	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Japan Tea Central Public Interest Incorporated Association	5. 総ページ数 13
3. 書名 Scientific Evidence for the Health Benefits of Green Tea	

1. 著者名 Mari Maeda-Yamamoto, Hirofumi Tachibana, Manami Monobe	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Japan Tea Central Public Interest Incorporated Association	5. 総ページ数 7
3. 書名 Scientific Evidence for the Health Benefits of Green Tea	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山下 修矢 (Yamashita Shuya) (40706355)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・果樹茶業研究部門・研究員 (82111)	